

コレクション展

玉村方久斗

大正ロマンの前衛画家展

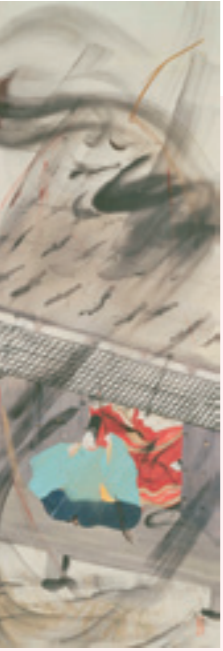


玉村方久斗《諸道聴耳世間猿》部分 1928年 山口県立美術館

会期 2024年 2月23日(金) - 3月31日(日)
休館日：月曜日

今から100年ほど昔に当たる、大正年間（1912～1926）から昭和初期にかけての時期には、この時代特有の、夢幻的で妖しい雰囲気を持つ日本画が多く描かれました。また、日本画壇に欧米の前衛芸術の影響が現れるようになったのも、この時代のことです。京都出身の日本画家・玉村方久斗（たまむら・はくと、1893～1951）は、こうした時代思潮の影響を受け、また、その特異な資質を生かすことによって、怪奇かつ諧謔的な新しい日本画の世界を作り出し、さらには先鋭的な前衛芸術運動にも携わった、異色の画家として知られています。

この展示では、江戸時代後期の怪奇小説作家・上田秋成（1734～1809）の『諸道聴耳世間猿』を絵巻化したものや、『伊勢物語』第六段に由来する「芥川之図」といった、玉村方久斗得意の日本古典に取材した作品に加え、やはり大正時代の流行であった、濃厚で鮮烈な彩色を特徴とする花鳥画の分野における名品の数々をご紹介します。近年、代表的な作品が再発見されたことなどを機に、再び評価が進みつつある玉村方久斗の芸術世界をお楽しみください。



玉村方久斗《芥川之図》1925-27年 山口県立美術館

HEART2023 第76回山口県美術展覧会

会期：2024年 3月7日(木) - 3月24日(日) 休館日：月曜日
ジャンルや作品の大きさなどの制限がなく、現代的で自由な表現の作品が魅力の山口県美展。展示室いっぱいの創作意欲あふれる作品をお楽しみください。県美展作家たちの作品を実際に買うことができるコーナー「アート・マーケット」も開催されます。

特別展示 昨年度の大賞受賞者、吉村大星氏による新作を展示します。
審査員 成相肇（東京国立近代美術館主任学芸員）、不動美里（姫路市立美術館館長）、松井紫朗（彫刻家、京都市立芸術大学教授）
観覧料 一般500(400)円 学生400(300)円 ※（ ）内は20名以上の団体料金。

18歳以下
70歳以上
無料



第75回山口県美術展覧会大賞受賞作品 吉村大星（山口県）《ザルの惑星》

Yamaguchi Prefectural Art Museum

2023 - 2024 schedule

山口県立美術館 令和5年度展覧会スケジュール

月	コレクション展示		特別展示	
	7/15(土) - 9/24(日) 《香月泰男とシベリア・シリーズⅡ》 描かれた戦争と抑留	8/22(火) - 9/24(日) ファンタジック・カチューズ ー没後50年 福田翠光	休室	7/15(土) - 9/24(日) ジブリパークとジブリ展 ファーストマンデー 9/4
9月				全館休館【9/25(月) - 10/12(木)】
10月	10/13(金) - 12/3(日) パノラマ 山水長巻	10/13(金) - 12/3(日) 新指定・重要文化財紹介 雪舟と雲谷派	10/13(金) - 12/3(日) 生誕110年 松田正平展 ファーストマンデー 11/6	10/13(金) - 12/3(日) 毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」 ーはじめて出会う「源氏物語」
11月				全館休館【12/4(月) - 2024年1/17(水)】
12月				
1月		1/18(木) - 2/14(水) 江戸時代の動物画 森派の作品から	1/18(木) - 1/21(日) 第76回山口県学校美術展覧会	
2月	1/18(木) - 3/31(日) 《香月泰男とシベリア・シリーズⅢ》 最晩年の創作活動： 1972 - 74年	2/23(金) - 3/31(日) 大正ロマンの前衛画家 玉村方久斗	1/18(木) - 3/31(日) 生誕150年 永地秀太展	全館休館【2/15(木) - 2/22(木)】
3月			3/7(木) - 3/24(日) 第76回山口県美術展覧会	

会期・開館時間・入館方法等が変更になる場合があります。ご来館の際は事前に当館ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

Information
■休館日 月曜日 ※祝日・休日、特別展開催中の第1月曜日 **ファーストマンデー** は開館。
臨時休館 9月25日(月)～10月12日(木)、12月4日(月)～2024年1月17日(水)、2月15日(木)～22日(木)
■開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)
■観覧料 コレクション展:一般300(240)円 学生200(160)円
 ※（ ）内は20名以上の団体料金。
 ※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、中等教育支援学校に在籍の方等は無料。
 ※障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
 ※令和5年(2023年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。
特別展ほか:別途定めた料金



山口県立美術館の公式アカウントはこちらから

山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
https://www.yma-web.jp/

山口県立美術館ニュース「天花」第140号 令和5年9月発行

編集 指定管理者サンポートローバーブリックセンターイサービズグループ 発行 山口県立美術館 印刷 櫻報社写真印刷株式会社

Yamaguchi Prefectural Art Museum

140

Contents
 生誕110年 松田正平展
 毛利博物館所蔵
 「源氏物語絵巻」
 ーはじめて出会う「源氏物語」
 新指定・重要文化財紹介
 雪舟と雲谷派
コレクション展
 大正ロマンの前衛画家
 玉村方久斗
 年間スケジュール

山口県立美術館ニュース「天花」

天花

TENGE

Collection

コレクション展

生誕150年 永地秀太展

2024年 1月18日(木) - 3月31日(日)

表紙作品解説

ギリシアの浮彫
1937年
油彩／カンヴァス
山口県立美術館蔵

永地秀太（1873-1942）は旧姓を有吉といい、都濃郡末武北村（現・周南市）の酒造業を営む家に生まれました。徳山中学を卒業後、画家となる志を立てて上京、本多錦吉郎の画塾・彰技堂で洋画を学び、その後、明治美術会附属教場に通って94年に卒業しました。98年からは陸軍幼年学校に勤務し、1902年に吉田博らとともに太平洋画会を設立しています。20年から22年まで文部省在外研究員として滞欧、帰国後は東京高等工芸学校教授となりました。

この作品は、永地の晩年の静物画で、37年の第1回新文展に出品されています。題名のギリシアの浮彫は、背景の布地の間からのぞいています。テーブルの上には別の色合いの布が敷かれ、その上に花瓶やカップなどの陶器やウィスキーのガラスビン、ブドウ、メロン、リンゴのほか、洋ナシ、イチジク、アケビなどの果実が配されています。

初期の頃の静物画と比較すると、モチーフを見る画家の視点が少し高くなっており、花瓶などの丸い口の形がより大きく描かれています。この絵の見どころのひとつは、画面いっぱいに並んださまざまな物体の多種多様な質感が、正確に描き分けられているところでしょう。まさにそこが画家の腕の見せどころでもありました。

（山口県立美術館 斎藤郁夫 学芸参与）



永地秀太 《ギリシアの浮彫》 1937年 油彩／カンヴァス 山口県立美術館蔵

生誕110年 松田正平展

会期 2023年
10月13日(金) - 12月3日(日)
休館日：月曜日(ただし、11月6日 **ファーストマンデー** は開館)

洋画家、松田正平(1913-2004)の生誕110年を記念して、半世紀以上にわたる創作活動を油彩画と素描によりご紹介いたします。山口県宇部市で幼少期を過ごし、第二次世界大戦前夜のパリで研鑽を積んだ松田正平は、生涯をとおして身近なモチーフを描き続けました。晩年には透明感のある独特の画境に到達し、1984年に第16回日本芸術大賞を受賞するなど、その繊細かつ温かみのある作品は、多くの人々を惹きつけ、高い評価を得ています。

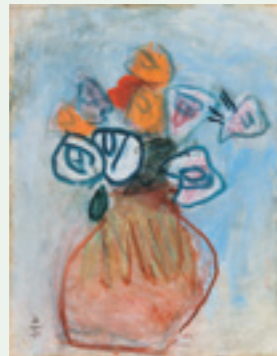
本展では、山口県立美術館のコレクションを中心に、約70点の作品をご覧いただけます。飄々としたなかにも厳しさをのぞかせる画家の人柄そのままの、おおらかでほのぼのとした、詩情豊かな松田正平の世界を心ゆくまで堪能ください。



《祝島風景》1994年 油彩/カンヴァス 山口県立美術館蔵



《コロー「真珠の女」模写》1938年 油彩/カンヴァス 個人蔵



《バラ》1978年 油彩/カンヴァス 山口県立美術館蔵



《NC嬢》1977年 油彩/カンヴァス 山口県立美術館蔵

観覧料 一般1,000(800)円
シニア・学生800(600)円
18歳以下 無料

*シニアは70歳以上の方、()内は20名以上の団体料金。
*高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。
*障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

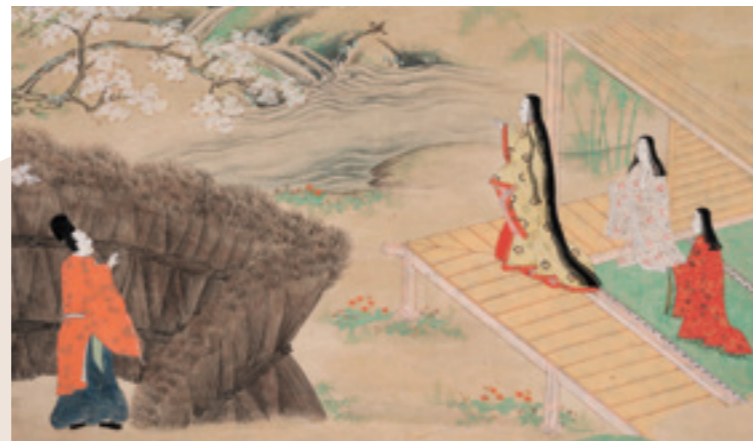
毛利博物館所蔵 「源氏物語絵巻」 —はじめて出会う『源氏物語』

会期 前期：2023年 10月13日(金) - 11月12日(日)
後期：2023年 11月14日(火) - 12月3日(日)
※前期と後期で展示替えを行います。毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」は、前期に各巻の前半、後期に各巻の後半を展示します。
休館日：月曜日(ただし、11月6日 **ファーストマンデー** は開館)

日本古典文学の白眉とされる『源氏物語』。平安時代、紫式部によって紡がれたこの王朝恋愛長編は、それぞれの時代に即して読み継がれ、さまざまな美術作品を生み出す源泉となりながら、日本文化に大きな影響をもたらしてきました。

本展覧会では、全五巻・五十四帖・六十五場面からなる毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」を入り口として、『源氏物語』にはじめて出会う方にも、あるいは久しぶりの方にも親しみやすい演出で、物語の世界へとご案内します。そのストーリーはもちろん、細やかに四季の情緒あふれる自然景の描写、秀でた色彩感覚、優美な詞書といった、豪華絵巻ならではの『源氏物語』をご堪能ください。

また合わせて、県内に伝わる毛利家ゆかりの写本や注釈書の優品を展示し、この物語と人びとがどのように出会ってきたのか、その一端をご紹介します。本展を通じて、千年以上にわたって愛されてきた『源氏物語』の魅力にふれていただければ幸いです。



逃げた銅い雀を追って出てきた少女に一目ぼれ

5帖 若菜 [展示:前期]
光君18歳、運命の出会い。10歳の美少女を引き取り育て、やがて生涯最愛の人に。



1帖 桐壺 [展示:前期]
光源氏誕生。光り輝くような美青年となり、成人する。物語の第一部は、恋と出世をめぐる光源氏(光君)の若き日々。



謹慎中といえど雅な心は忘れない

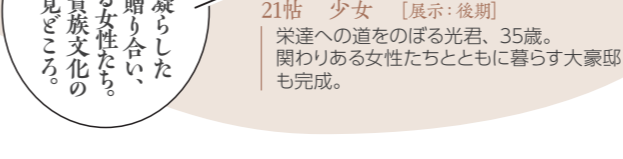
12帖 須磨 [展示:後期]
光君26歳、女性スキャンダルで失脚。自ら地方に退き謹慎生活。



猫の首綱が御簾にからまり、光君の若妻の姿が見えてしま...



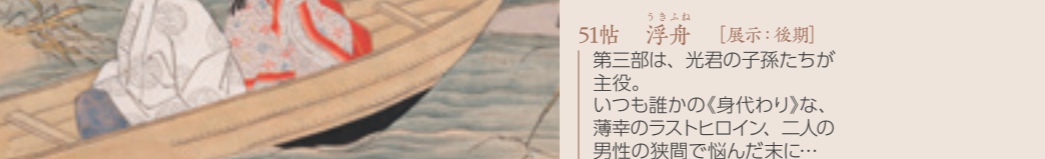
工夫を凝らした手紙を贈り合い、交際する女性たち。優雅な貴族文化の描写も見どころ。



21帖 少女 [展示:後期]
宋達への道をのぼる光君、35歳。関わりある女性たちとともに暮らす大豪邸も完成。



34帖 若菜上 [展示:後期]
極めた栄華にさす影—光君41歳。壮年から晩年を語る第二部へ。ある春の日の出来事からはじまる、若妻の裏切り……。



51帖 浮舟 [展示:後期]
第三部は、光君の子孫たちが主役。いつも誰かの(身代わり)な、薄幸のラストヒロイン、二人の男性の狭間で悩んだ末に…

※いずれも「源氏物語絵巻」17世紀 江戸時代 毛利博物館蔵 ※5、12、21、51帖は部分。

新指定・重要文化財紹介 雪舟と雲谷派

「雪舟と雲谷派」ゆかりの新・国指定文化財6点を公開。

会期 2023年
10月13日(金) - 12月3日(日)
※会期中、展示替えを行います。
休館日：月曜日(ただし、11月6日 **ファーストマンデー** は開館)

室町時代、日本絵画史を代表する画僧・雪舟等楊(1420-1506?)は山口を拠点に活動しました。そのおよそ100年後、雲谷等顔(1547-1618)が、雪舟の大作《四季山水図(山水長巻)》(国宝、毛利博物館蔵)を毛利輝元(1553-1625)から授かり、雪舟の画風を継いだことによって、萩藩お抱え絵師「雲谷派」が誕生します。

雲谷派の画家たちは《山水長巻》を模写することで雪舟の画風を学習し、さらに雪舟の肖像画を描くことで、「雪舟流の正統な継承者」としての立場を対外的に示しました。この雲谷派による《山水長巻》模本と《雪舟像》が、「雪舟から雲谷派への流れ」を知る上で欠かせない作品と評価され、このたび重要文化財に指定されました。

本展では山口県内の「新・国指定文化財6点」を中心に、「雪舟と雲谷派」ゆかりの作品計15点を公開し、雲谷派の活動の原点について紹介します。

重要文化財
雲谷等與《雪舟等楊像》天祐紹果賛
寛永16年(1639) 賛 山口県立美術館蔵
【展示期間：10月13日～11月12日】



重要文化財 雲谷等益《四季山水図(山水長巻)》模本 部分 17世紀前半 毛利博物館蔵
※10月13日～11月12日は画巻の前半、11月14日～12月3日は後半部分を展示します。

連携企画のお知らせ
10月28日(土)～12月4日(月)は、毛利博物館(防府市)・特別展「国宝」にて、国宝・雪舟《四季山水図(山水長巻)》をはじめ毛利家伝来の名宝が展示されます。当展とあわせてご覧ください。

主催 山口県立美術館、yab山口朝日放送 共催 公益財団法人毛利報公会 毛利博物館 特別協力 エフエム山口

◎当入場券で「生誕110年 松田正平展」、「毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」—はじめて出会う「源氏物語」」、「新指定・重要文化財紹介 雪舟と雲谷派」をご覧ください。